

保	育	の	父	・	佐	竹	音	次	郎	に	学	ぶ	会	★	通	信
	音	次	郎	会	◆	I	N	F	O	◆	v	o	l	.	1	9
															別	冊

【読み物シリーズ 6】

竹島神社は天満宮？

作：中平菊美

佐竹音次郎の著書と言ってもよさそうな「聖愛一路」の中に、音次郎17歳の時、「天満宮に丑の刻詣りをした。」とある。また、「夢の碑」を天満宮に置いたとも、音次郎が昭和14年に最後の墓参にと妻くまと連れだって帰郷していた時のことを書いた乾 綾雄氏の文章の中に「音次郎から天満宮に奉納してほしいと2つの巻物(菅公の画像と辞世の歌)を預かった。」ともある。

その天満宮は竹島神社のことであることは間違いなく、音次郎は竹島神社を天満宮と呼んでいたことが紹介されている。

この記述を知った竹島出身者で、竹島神社が天満宮と呼ばれることを耳にしたことがなかった方が疑問に思い調べた結果、「地元にはそのような記録が見当たらない。」ということで、現在まで解明したい課題の一つとなってきた。そこで市民図書館で調べると、次のようなことがわかった。

『鎮守の森の今』(竹内莊市著)によると、「竹島神社は岩越吾(五)兵衛が勧請、元は天神宮と称した」とある。(補足：岩越吾兵衛は500年ほど前の岩越(竹島)の城主)

明治時代になり神社の名称変更が盛んに行われ、竹島神社と呼ばれるようになったのだろうが、それ以前は天神宮と呼ばれていたということであろう。

また、辞典『大言海』(坂本嘉治馬の富山房出版)によると、「天神宮は天満宮<天満天神もしくは天満大自在天神が正式名称でその略称>でもあり、菅原道真を祀っており、菅神宮と言われることもある」とある。

以上から考えると、音次郎が天満宮と書いているのは思い違いでなく、音次郎が子どもの頃には、天神宮とも天満宮とも呼ばれていたのが事実だと思われる。

参考までに、天満宮の由来を簡単におさらいしておこう。

時は、今から1300年余前の平安時代。京都に菅原道真という有能な人物がいて、右大臣という重要な役職についていた。ある時、心当たりの無い罪に問われ、九州に左遷(一種の追放)させられ、悲しみに明け暮れる中で亡くなる。程無く、御所に雷が落ち、道真の左遷に関わったと思われる者たちが雷に打たれて亡くなる。それを人々は「菅原道真が雷神になって仕返しをしたのだ。」と恐れる。更に、全国各地で地震や大雨、病気や飢きんなどの災害が続く、これらも道真のたたきであると噂され恐れられるようになる。

そこで、道真のたたりをしずめると共に、村の守り神になってもらいたいとの願いから建てられたのが天満宮だそうだ。京都の北野天満宮が最初のもので、現在も全国に約12,000社ほどあるそうである。

（注）竹島神社は近年、その神様は尾根続きにある岩越四所神社に合祀され、廃社となっており、鳥居や境内に至る石段、夢の碑が名残をとどめている。岩越四所神社は岩越吾兵衛と武芸に秀でた4人の家来を祀ったものだそうである。

